6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

【6.1.1 教育課程】
2008年度の改正を経て、2010年度に神学研究科博士課程前期課程キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コースが完成年度にあたり、この点を踏まえたカリキュラムの整備に着手している。2008年度改正については2007年度の進捗状況報告書に記載したとおりである。なお、神学部としての英語教育を検討した結果、2008年度は「英語（リーディング）」（履修基準年度１年）「英語（総合）」（履修基準年度２年）について受講者数を１クラス20名までとし、結果、計２クラスを開講している。少人数クラスでの教育を通して、英語のキリスト教文献を読む力をつけることを目指している。

【6.1.2 履修科目の区分】
2007年度に引き続き、新たに2010年度に向けて整備を検討中である。

【6.1.3 授業形態と単位の関係】
2007年度に引き続き、新たに2010年度に向けて整備を検討中である。

【6.1.4 単位互換／単位認定等】
とりわけキリスト教思想・文化コースのカリキュラム整備を視野に入れつつ、現在検討中である。

【6.1.5 開設授業科目における専・兼比率等】
神学部　専門教育 必修科目：83.3%（12科目中10科目）
選択必修科目：100.0%（16科目）
選択科目：79.2%（24科目中19科目）
全科目 86.5%
教養教育 必修科目：66.7%（9科目中6科目）
選択必修科目：25.0 %（4科目中1科目）
選択科目：0.0 %　（2科目）
全科目平均：46.7%

【6.1.6 カリキュラムと国家試験】
【6.1.7 インターンシップ、ボランティア】
いずれについても、キャリア教育の点からその可能性を現在検討中である。

【6.1.8 生涯学習への対応】
施設、設備の状況を考慮しつつ、2007年度から引き続き検討中である。なお、伝道者育成については神学研究科博士課程前期課程と合わせて６年一貫で考えている。そこで伝道者の生涯学習については、正課教育ではないが、講座「神学セミナー」などのプログラムが対応している。

【6.1.9 正課外教育（エクステンション等）】
教会や社会での活動を単位として認定することについては、2007年度と同様に検討中である。

学内第三者評価

カリキュラム改革の方向は妥当なものと認められる。神学研究科のカリキュラムが、学部の方針と大きく齟齬しないことが６年一貫教育として望ましい方向である。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
１クラス20名以下の英語教育が実現したことは評価できる。